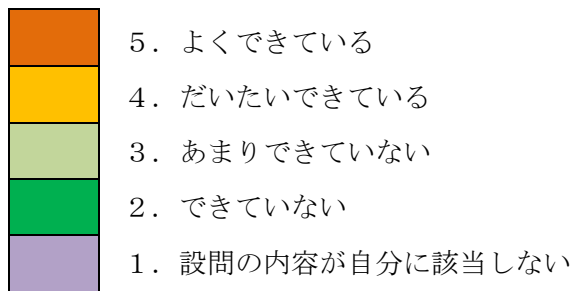


せいじ園「2023年度 自己評価に関するアンケート」集計結果

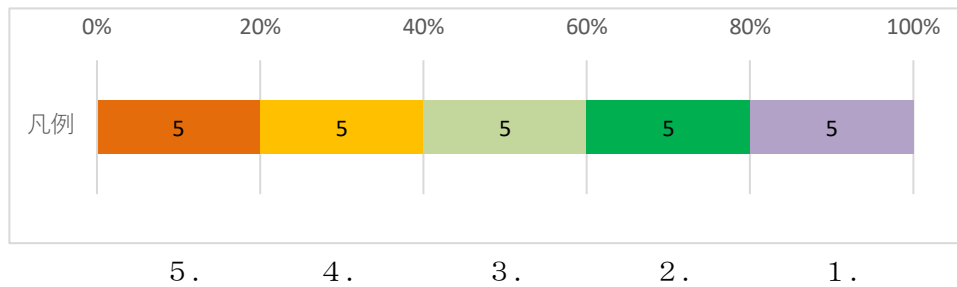
本年度も、以下の5項目から構成される教職員アンケートを実施した。

- I 園の教育保育理念・基本方針に関して（1～5）
- II 子どもの保育に関して（1～11）
- III 保護者への対応に関して（1～6）
- IV 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して（1～6）
- V 能力向上の努力に関して（1～8）

それぞれの設問については、次の評点を選択する形で回答を求めた。



集計グラフ（グラフ内数字は各評点を選択した人数）

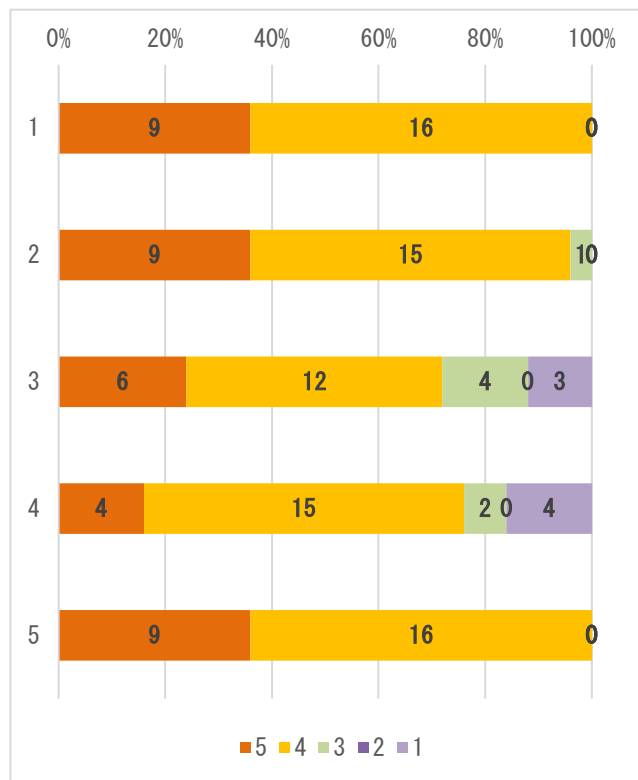


2023年12月下旬から2024年1月上旬にかけて、Microsoft Forms を用いてオンラインで本アンケートを実施した。該当教職員数は25名。回収率は100%である。集計は園長が行った。

せいじ園「2023年度自己評価に関するアンケート」集計結果

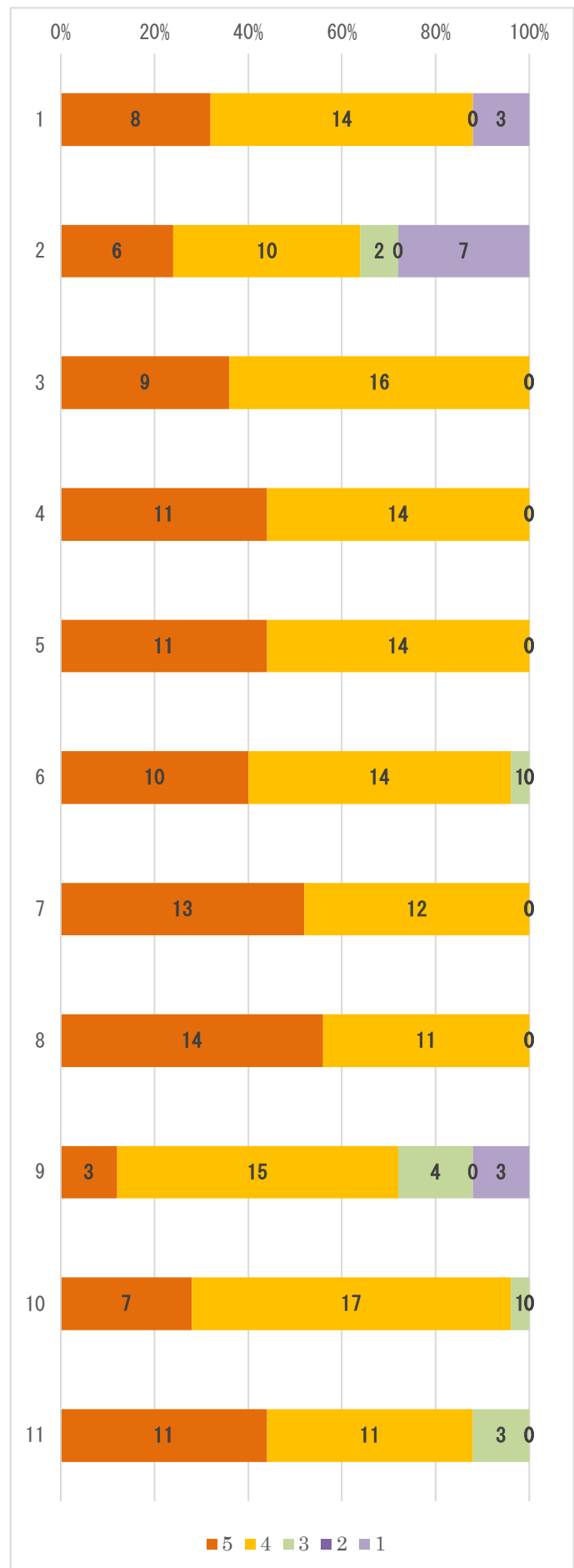
I 園の教育保育理念・基本方針に関して

①園の教育保育理念を理解している。
②園の教育保育三つの柱を理解している。
③園の今年度教育保育の努力目標を理解している。
④自分が担当する年齢の年間指導計画を理解している。
⑤園が目指す幼児の姿を自分なりにイメージできる。



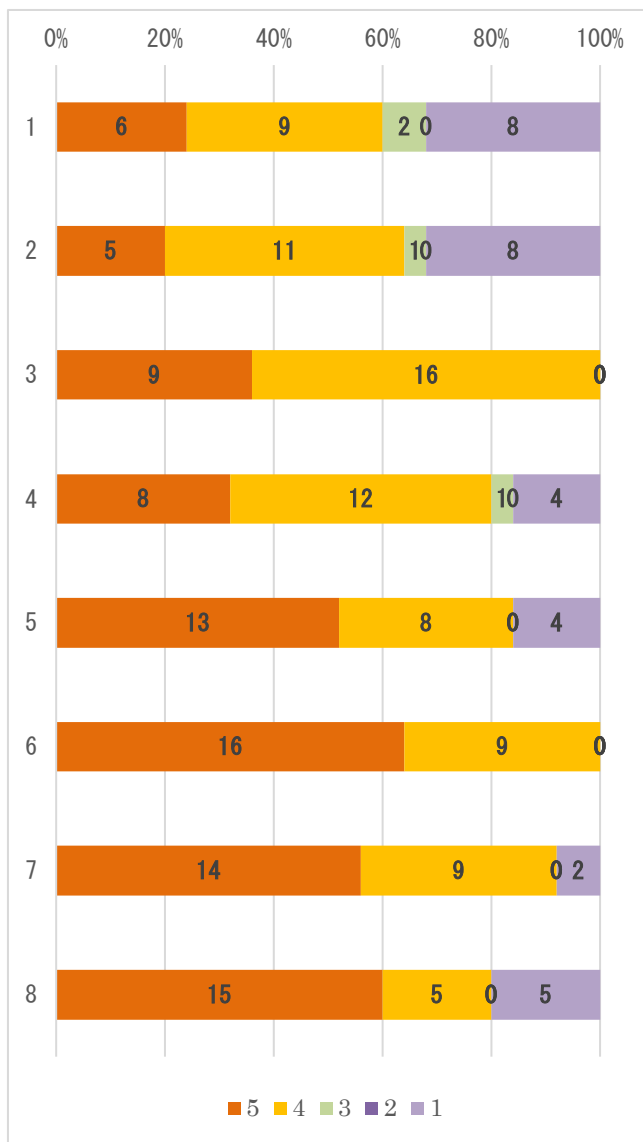
II 子どもの保育に関して

①登園時、担当する子ども一人一人の健康状態について十分に確認している。
②子ども一人一人の家庭環境や、発育・発達の状態について理解できている。
③子どもの話によく耳を傾けるようにしている。
④子どもを尊重した、丁寧な言葉遣いを心掛けている。
⑤どの子どもにも感情のむらなく平等にかかわるよう心掛けている。
⑥きつい言葉遣いや、子どもの自信を失わせるような言葉・態度を避けている。
⑦子どもをほめたり、励ましたり、子ども自身が目当てを持てるような言葉がけを心掛けている。
⑧子どもとの温かなやり取りや適度なスキンシップを心掛けている。
⑨子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイデアを提供するよう心掛けている。
⑩子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。
⑪保育者自身が、保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それをことばや態度で表現するよう心掛けている。



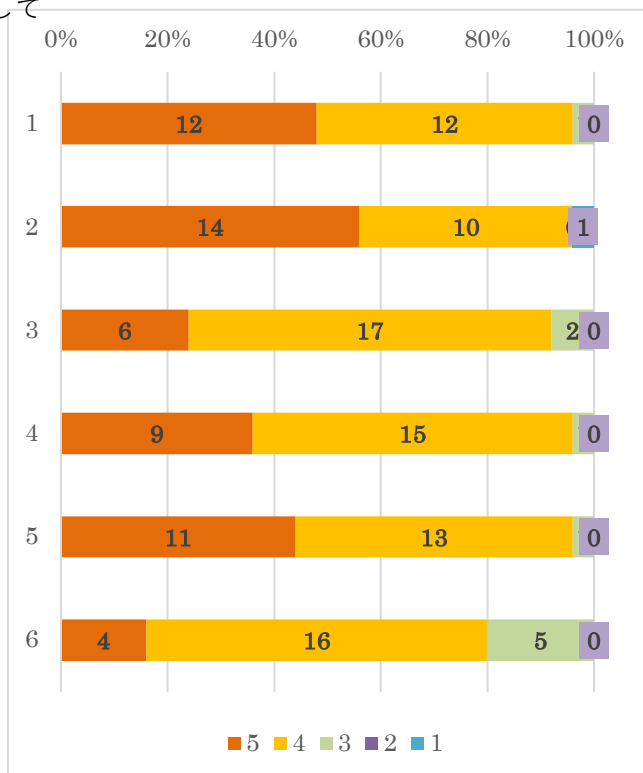
III 保護者への対応に関して

①子どもの様子について、直接話をしたり、電話・連絡帳などを使って保護者と情報共有している。
②保護者から説明された各家庭での養育方針などに留意した保育を心がけている。
③ていねいな言葉遣いを心掛け、友だち同士のような態度で接していない。
④保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している。
⑤保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いたうえで、上司に報告、相談をしている。
⑥教職員や園の批判を軽はずみにしたり、他の園児や家庭の個人情報を他言したりしていない。
⑦家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず、上司に報告している。
⑧保護者からの要望、意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談をしている。



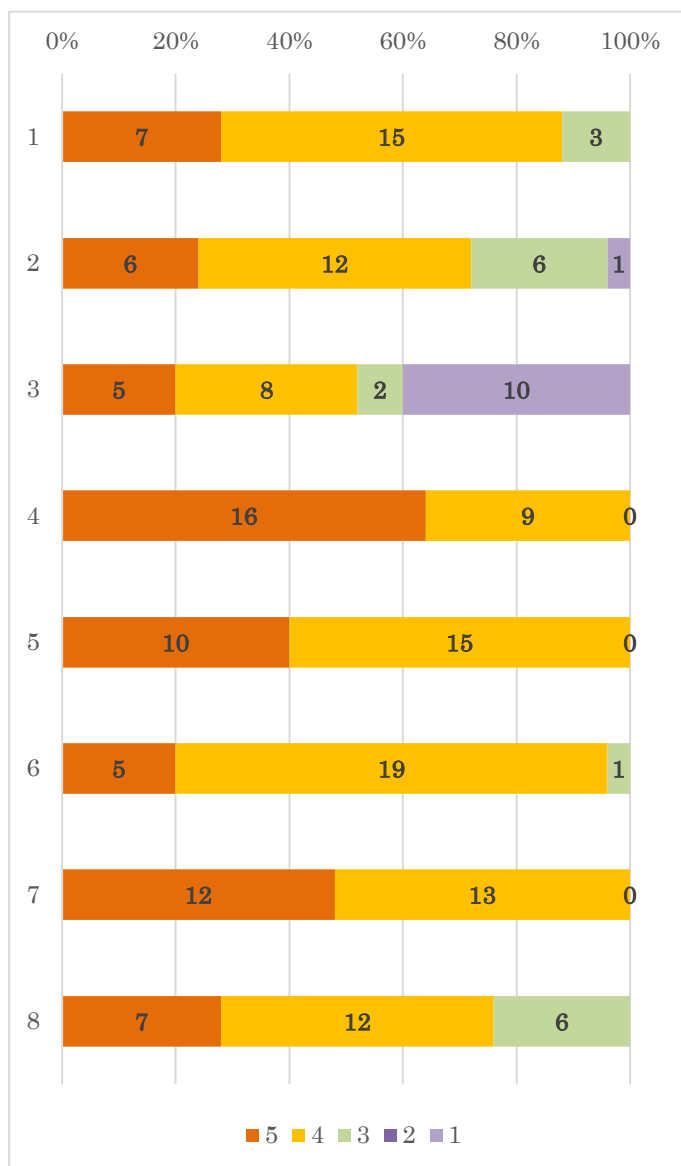
IV 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

①子どもの情報について、保育者間で共有すべきことは同僚・上司に適切に報告している。
②同僚から保育について相談を受けた時、誠意をもって耳を傾けるよう心掛けている。
③同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的に情報交換できるよう心掛けている。
④上司や同僚の助言を受け入れ、自分の考えや行動を見直すことができる。
⑤相手の経験年数にかかわらず、身近な同僚や仲間を尊重する関わり方をするように心掛けている。
⑥自分の考えや思いを上司や同僚に対して伝えている。



V 能力向上の努力に関して

①年度ごとに自分なりの目標や課題を持って保育に臨んでいる。
②保育・教育に関する新しい取り組みや考え方について、情報を得ようと日頃から努力している。
③研修や研究会には自分なりの課題をもって参加している。
④保育者の言動が子どもに影響を与えることを自覚している。
⑤職場では正しく丁寧な言葉遣いを心掛けている。
⑥園生活全般における危険性を認識し、事故等の未然防止に日頃から努めている。
⑦服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心掛け、安全性にも気をつけている。
⑧回覧される月刊誌『キリスト教保育』や保育の参考文献を読み、自身の保育への参考を得るよう心掛けている。



【園長所見】

アンケートを実施した対象人数は25名である。あくまでも「自己評価」であり、一人ひとりの教職員が各項目に関する評価を主観的に判断した数値の集計である。昨年度実施のアンケートと概ね同様の結果が得られたが、いくつか特徴的なこと、留意すべきこと等、園長の所見を以下に述べる。

I 園の教育保育理念・基本方針に関して

園全体の教育保育理念や基本方針の理解については、「よくできている」・「だいたいできている」と回答した割合が昨年度より上昇した。年度や年齢ごとの目標や計画の理解（③、④）に関しては、「あまりできていない」との回答が若干見受けられた（ただし、昨年度より割合は低下）。こうした点について、引き続き保育者への周知を図っていきたい。

II 子どもの保育に関して

昨年度と同様に回答結果は概ね良好であるが、いくつか留意すべき点がある。まず、②「子ども一人一人の家庭環境や、発育・発達の状態の理解」については、「よくできている」の割合が（昨年度と同様に）30%を下回り、「設問の内容が自分に該当しない」とした割合は昨年度より上昇した。子どもの家庭環境や発達に関する問題が複雑化していることも背景にあると考えられるが、園全体として必要な範囲で適切な情報共有をしていく必要がある。

設問⑨「子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイデアを提供するよう心掛けている」では、「よくできている」・「できている」の割合が昨年度の89%から72%に低下した。保育者が新しいアイデアを提供できるような、余裕のある環境を園として整えることが求められている。

III 保護者への対応について

保護者対応に関わっている教職員の回答は、昨年度と同様に概ね良好な結果であった。もっとも、設問④「保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している」では、「よくできている」と回答した割合が昨年度の44%から32%に低下した。保育者の多忙な業務の中で、保護者と園とのコミュニケーションが適切に行えるよう、園として留意する必要がある。

IV 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

設問③「同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的に情報交換できるよう心掛けている」では、「よくできている」と回答した割合が昨年度の44%から24%に低下した。さまざまな保育者がチームとして協働する園であるからこそ、保育者間の意思疎通促進のために引き続き園として取り組む必要がある。他の設問に対する回答は、概ね昨年度と同様の傾向であった。

V 能力向上の努力に関して

概ね昨年度と同様の結果である。設問⑥「園生活全般における危険性を認識し、事故等の未然防止に日頃から努めている」に関しては、「できている」の割合が76%であるものの、「よくできている」と回答した割合が昨年度の37%から20%に低下した。事故の未然防止が園の最重要課題の一つであることを踏まえ、今後も園全体として安心安全な保育を提供すべく尽力していきたい。